

2022 年度

学位記授与式

学長式辞

卒業生の皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。我々、こども教育宝仙大学の教職員一同、ご卒業を心からお喜び申し上げます。

ご家族の皆様も、ご卒業を、心待ちにされていたことと思います。しっかりと成長され、門出を迎えられます。心からお祝いを申し上げます。本日は、4年ぶりにご臨席いただくことができ、晴れ姿を間近に見ていただき、我々も嬉しい限りです。

そして、本日の学位記授与式に合わせるように、例年より早く、桜が開花し、皆さんの門出を祝福しています。

本年度の卒業生は、本当に良く頑張りました。新型コロナウイルスに翻弄されながらも、授業、ゼミ、実習等に懸命に取り組み、人間力、判断力、実践力をしっかりと身に付けられました。私が初めて、学長として迎えた学年でもあり、私自身も感慨無量です。

振りかえてみますと、4年前の入学式は、ご家族の皆様、そしてご来賓もお呼びして挙行できました。しかも「令和」という新たな年号が発表された翌日でした。私からは、万葉集に由来する、令和に込められた「梅の花のように、一人ひとりが、それぞれの花を大きく咲かせることができる」との願いに触れ、皆さんそれぞれが、いわば「世界に一つだけの花」を咲かせて欲しいとの思いを伝えました。この思いは今も変わっていません。

また、本学の教職課程のカリキュラムも一新した年度であり、次の時代の保育者を目指して学んで欲しい、との話もしました。

そのとおり皆さんは、1年生の時、学生生活を楽しみながら、保育者に向けた学びをスタートしました。

ところが、2年生になる頃、新型コロナウイルスの影響で、状況は一変しました。緊急事態宣言が発出され、大学に来ることもできず、授業はオンラインに切り替えざるを得ませんでした。我々教職員も、もちろん初めての経験であり、また実践教育に重きを置く本学では、それまでほとんどが対面授業でした。そのため大きな変革が必要でした。教職員全員が毎日オンラインで打ち合わせをしながら、何とか4月20日には、他大学に先駆け授業を開始することができました。その後も、オンラインにうまく入れない学生の方もいて、その情報交換も続けながら、またWifi環境や、キーボード貸し出しによる音楽授業の環境なども整備し、乗り越えてきました。

皆さんも不安だったと思います。先生や友達に会えず、画面越しでの情報交換等で何とか乗り切ってくれました。ご家族の皆様のはげましも、大きな力になったことと思います。

その後、感染が落ち着くと、対面授業も併用しながら、授業を継続しました。3年生、4年生になると、保育実習、教育実習が始まりました。大学内の演習で、替えることも可能だったのですが、実践は大切、避けて通れない、と判断し、希望者全員を実習に参加させる方針としました。緊急事態宣言が発出されている時は、実習を控え、実習園での感染、学生の感染があれば、延期をし、遅れ遅れとはなりましたが、何とか実習をクリアしてくれました。

オーストラリアへの国外保育体験も、渡航が制限され実施できませんでした。しかしこの2月に、3年ぶりに再開できました。卒業生からも2名参加され、貴重な体験につながったことと思います。

このような状況下で努力を重ね、皆さんは本日の学位記授与式を迎えられました。もう一度申し上げたいと思います。本当によく頑張りました。

社会全体も大きく変わりました。デジタル化が急速に進み、オンライン会議やオンライン授業は当たり前のこととなり、場所という概念を乗り越えました。皆さんも多くのことを学びました。予期せぬ状況に対応する柔軟性や、オンライン授業で学び続けるには、モチベーションを維持する

自己管理も必要でした。そして痛感されたのが、人と人とのつながりの大切さ、ご家族も含め、人を思いやる優しさではなかったかと思います。

この4月から皆さんは社会人となり、多くの方は保育者として、子ども達の前に立たれます。同時に、子ども家庭庁が発足し、その目標である「こどもまんなか社会」の実現に向け、社会全体が動き出します。皆さんは「こどもまんなか社会」の担い手となります。コロナ禍で学んだことも活かしながら、全ての子ども達を健やかな成長に導き、人への優しさを持つ、子ども達に育てていただければと思います。

新型コロナウイルスも予想しなかった事態ですが、昨年からは、ロシアによるウクライナ進攻という予想せぬ事態も発生し、未だに収束していません。

これからの人生においても、予想せぬことが色々と起こると思います。そのような際も、まずは起こったことを真正面から受け止めて下さい。前を見続け、何か打開策がないかを考え続けて下さい。時が解決してくれることも、状況が変わることも、誰かが解決してくれることもあります。大切なのは、決してあきらめないことです。

ただ、疲れたら少し休んでみて下さい。人生100年時代を生きる皆さんには、時間は充分にあり、選択肢は多種多様です。自分を再発見する充電期間も大切です。そのような際は、本学や、先生方のことも思い出し、いつでも本学を訪ねてみて下さい。大歓迎致します。

こども教育宝仙大学は、皆さんにとって永遠の母校であり、教職員一同は、永遠の応援団です。

それでは、皆さんのご健康と、益々のご活躍を、心から祈念し、学位記授与式の式辞とさせていただきます。

令和5年3月19日

こども教育宝仙大学 学長 太田誠一